

～ 遊びながら、たくさんの事を学ぶ ～

よく伸びる軽量粘土と小さめの廃材を置きました。
大人の指示はなく、制止する声もありません。
子ども達はつまんだり、伸ばしたり、ちぎったり、それぞれの
興味ある事に集中していきました。

立てたストローにキャップをのせたいけれど落ちてしまいます。
斜めだよ、と教えたくりますが、見守っていると
自分でいろいろ試し、斜めに気付き「のった！」と嬉しそうです。
廃材を見つけ「これなに？」「なんだろうね」と正解を言わずにいると、
自由な想像力で見立てていきます。

絵の具を出すと、混ぜる、流す、塗る等、さらに没頭していきました。

「どうして流れるんだ？こうしたらこうなるかも」と、問いと仮説を立て
やってみて、確かめていきます。

絵の具に入れた廃材が、青く染まることを発見しています。
絵の具が滴り落ちる様子、机上ではじく様子をじっと見つめています。

子ども達は自分の興味ある事を見つけ、探求しながら真剣なまなざし
で遊び続け、たくさんの事を学んでいました。

大人が口や手を出しすぎると、自分でやってみて発見する機会を
奪ってしまいます。

子ども達がふと視線を上げた時に、見守る眼差しがあり、共感して
もらうことで、安心して探求の冒険ができるのだらうと思います。

やりたい事を止めないための設定と、大人の在り方を考えるだけで、
子ども達は自分で考え、発見し、学んでいけるようです。

